

VRE 選択分離培地の比較検討

○上原麻美¹ 村田正太¹ 齊藤知子¹ 宮部安規子¹
瀬川俊介¹ 佐海知子¹ 渡邊正治¹ 野村文夫^{1,2} (¹千葉大附属病院 ²千葉大学大学院分子病態解析学)

【背景・目的】バンコマイシン耐性腸球菌 (VRE) は、国内では比較的稀だが、一度排菌者が発生すれば極めて伝播しやすい菌である。院内感染対策上問題となる VRE の分離性能を検証するため、6 社の培地の比較検討をすることを目的とした。

【方法】VanB 型, VanC 型腸球菌を用いた。培地は、VRES 寒天培地: 極東 (A), VR-EF 寒天培地: 日水 (B), ECS 寒天培地/ECSV6 寒天培地: 栄研 (C), クロモアガー-VRE スクリーニング培地: 関東 (D), VRE 選択寒天培地: BD (E), chromID™VREagar: BM (F) の 6 種類を使用し、検討はミスラ法に準じて行った。さらに、VanB 型腸球菌を添加した患者の糞便検体について添加回収試験を行った。

【結果】VanB 型腸球菌について、各社 VRE 選択分離培地における発育状態は、対象である 5% ヒツジ血液寒天培地: BD と同等な発育数であり、良好な発育支持力を示した。VanC 型腸球菌 2 株では、(A), (B), (C) の各培地で対象とほぼ同等の発育を認めたが、(D), (E), (F) では発育しなかった。標準株 *Enterococcus faecalis* ATCC29212 (VCM 感性株) については、各種培地で発育が抑制された。また、患者検体を用いた検討では、(D), (E), (F) の 3 種の培地において VanB 型腸球菌が分離された。(A), (B), (C) の培地では元の患者検体中に存在した VanC 型腸球菌が優位に発育し、VanB 型腸球菌は分離されなかった。

【考察】院内感染対策上重要となる VanA 型, VanB 型腸球菌の検出を目的とする場合は、VanC 型腸球菌の発育を抑制する培地を使用することが望ましいと思われた。

(043-224-5298)